

# 令和5年度 舢倉島耳鼻咽喉科検診実施報告書

令和5年8月31日  
舢倉診療所長 河端 康平

令和5年度の舢倉島夏期総合診療は石川県との共催により令和5年8月5日(土)、6日(日)の両日にわたり開催を予定していた。しかし、8月1日に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染者が発生し、感染拡大防止の観点から中止となった。

診療所長や島民が検診中止で悲しみに沈む中、耳鼻咽喉科小森貴医師のご厚意・完全ボランティアにより耳鼻咽喉科のみ検診を実施するに至った。特定健診および大腸がん検診は別日に所長が行った。

多大なるご尽力をいただいた小森貴医師をはじめ、準備の段階からお力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

## 1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、整形外科、内科」診療を実施し、舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

## 2. 日程

令和5年8月26日(土) 午後1時～午後5時

令和5年8月27日(日) 午前9時～午前11時

## 3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

受付：玄関ロビー

## 4. 診療従事者

耳鼻咽喉科 小森 貴 医師 (小森耳鼻咽喉科医院名誉院長)

運営 河端 康平 医師 (舢倉診療所)

## 5. 受診状況と問題点・今後の改善案

令和5年度は、のべ人数41名、実人数28名の方が受診された。各科の受診者数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	整形外科	特定健診	大腸癌 検診	前立腺癌 検診	のべ人数
令和5年度	中止	10	なし	中止	20	12	なし	41
令和4年度	28	13	なし	21	25	なし	なし	87
令和3年度	27	15	なし	なし	17	なし	なし	59
令和2年度	開催なし							
令和元年度	49	20	なし	10	30	21	15	145
生成30年度	50	24	中止	中止	30	24	19	147
平成29年度	49	13	14	なし	33	26	19	154

※特定健診は6月1日～7月31日、大腸がん検診は7月1日～8月10日まで本事業とは別に行った。

全体の傾向としては昨年に比べてのべ受診人数は大きく減少、実人数も減少した。内科・整形外科検診中止や輪島大祭直後の日程が影響し、事前の予定人数を下回ったと考えられる。診療科別では、耳鼻咽喉科受診者は減少した。

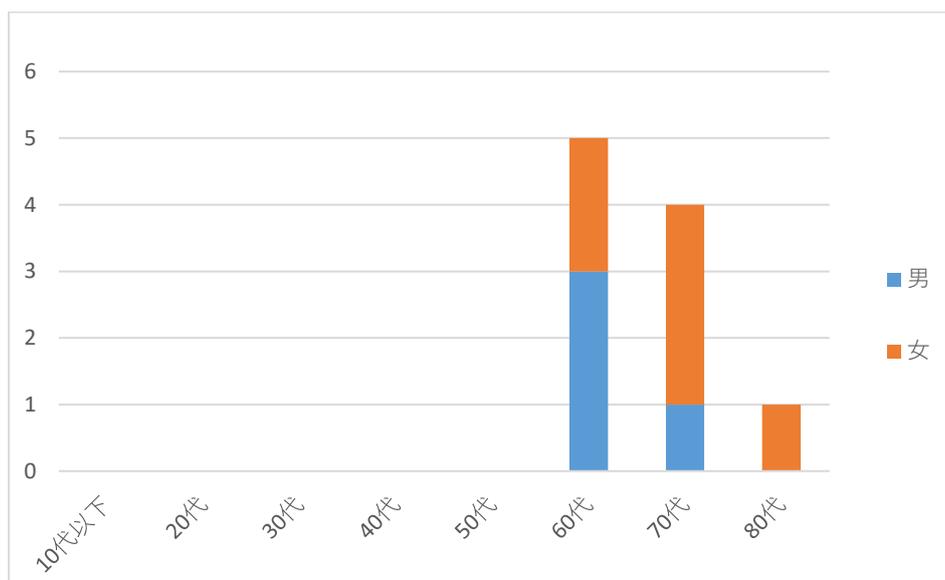
特定健診・大腸がん検診希望者に関しては、当日のスタッフ数に限りがあることや混雑による COVID-19 感染拡大防止のため、所長が総合診療当日までに行った。参加スタッフを増員できれば、特定健診も当日に実施でき、事前の所長の負担も減らせる可能性があるが、COVID-19 を契機に県事業としての予算が減少していることから今後の当日での特定健診は難しいと考える。

以下で各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

## <内科>

開催予定であったが中止となったためデータなし。事前の受診予定者は 33 人であり、昨年度受診者を上回っていた。

## <耳鼻咽喉科>



今年度は前年度に比べ、受診者は 3 人減少した(令和 4 年度 13 人⇒令和 5 年度 10 人)。今回の人数減少は輪島大祭直後の日程のためと考えられる。事前の受診予定人数は 17 人であり、昨年度受診者を上回っていた。

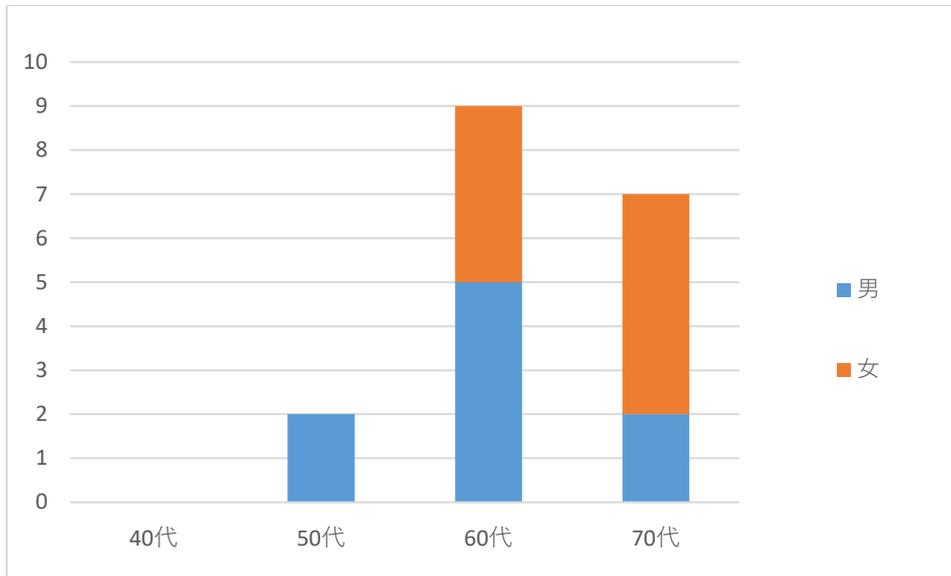
例年通り女性の受診者が多かったのは、海女漁という舯倉島特有の背景を反映している可能性がある。海女は女性が多く、サーファーズイヤーや外耳道炎などを起こしやすい環境にある。今年度受診者でも 2 人に外耳道炎の診断がついた。このような背景を踏まえ、海女さんを中心に少しでも耳鼻咽喉科領域で症状がある島民には事前に強く受診を促した。また、島民の高齢化も進んでおり、難聴を訴える方も一定数存在しているが、今年度は難聴での受診はなく、標準聴力検査を施行したのは 0 人であった。しかし、今後も島民の高齢化は進み、耳鼻咽喉科診療の意義は高まっていくことが予想されるため、受診を積極的に呼びかけ、所長は純音聴力検査について勉強し、検診日に実施できるよう準備する必要がある。

舯倉島における耳鼻咽喉科検診は喉頭がん検診の役割も果たしている。特に喫煙者には耳鼻咽喉科診察の必要性を説明し、受診を強く促した。島民は喫煙者が多く喉頭癌のリスクが高いため、来年以降も男性女性問わず、喫煙者にはより積極的な耳鼻科受診を促していく必要がある。

## <整形外科>

開催予定であったが中止のためデータなし。事前の受診予定者は17人であった。

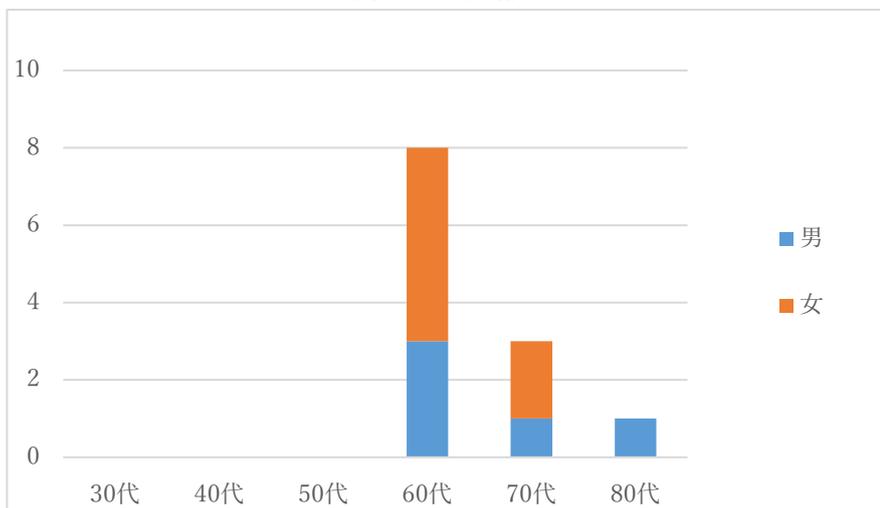
## <特定健診>



特定健診は6月1日～7月31日に行った。受診者数は20名であり前年度よりも減少した。新型コロナウイルス感染症の流行を契機に特定健診は総合診療当日ではなく、それよりも前に行うようになってきている。今年度も特定健診前の5月から診療所便りで健診内容、持参するものなどを事前に周知した。当日のスタッフ数の限界や混雑状況を考慮すると、今後は直近2年と同様の日にちで特定健診を行っていくのが妥当と考える。

舩倉島ではほとんどの島民が何かしらの疾患で当診療所をはじめとする輪島市内の医療機関に通院しているが、定期通院のない島民にとっては特定健診が1年に1回の受診の機会となる。食料に対するアクセスが通常よりは容易ではない舩倉島においては、食料保存の文化が残っているためか1日当たりの食塩摂取量が多い印象がある。濃い味付けや島民の高齢化もあって、高血圧治療中の島民も増えている。生活習慣病の予防と早期発見のためにも対象者全員への積極的な健診受診の呼びかけが重要である。

## <大腸がん検診>



大腸がん検診は令和元年以来4年ぶりの開催となった。総数は12名であった。令和元年と比較して減少したのは、島民の減少と久しぶりの開催であったことが考えられる。2日間にわたって島民自身で便を採取しておく必要があるため手間がかかるが、胃カメラ・大腸カメラを施行していない現在において、侵襲が少なく重要な検査である。以前は総合診療当日のみの検査であったようだが、今年度は7月～8月にかけて検診を行った。説明や周知はいるものの検査自体の負担は少ないため今後もぜひ継続していただきたいと考える。便が出るタイミングには個人差があるため、ある程度の期間を設けて実施するのがよい。

## 6. 各科診療内容

### <内科>

前年度に引き続き、内科検診は特に心臓検診として堀田医師に担当して頂く予定であったが、新型コロナ感染症のため中止となった。島民の高齢化および生活習慣病罹患率の高さより、循環器疾患の合併している患者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきている。引き続き内科検診を継続する必要がある。

### <耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和58年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。この総合検診を正式に制度化されたお方であり、総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舢倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤーズ（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーズの進行は止まっているとの事で、島の海女にとって必要不可欠なものとなっている。最近では、島民の高齢化もあり、深いところまで潜る海女が減ったことも関係している可能性がある。

また耳鼻咽喉科検診は喉頭癌検診もかねている。島民の喫煙者は喫煙量が多く、高齢化も進んでいることから、年一回の受診の機会は非常に重要と考えられる。今年度は健診の約2か月前から呼びかけをしていたが、男性受診者は4名にとどまった。しかし普段の診察で島民と話していると、ここ数年の診療所長の働きもあって、舢倉島の耳鼻咽喉科検診では喉頭癌の診察も含まれることは周知されてきているように感じる。これからも喫煙歴のある島民への積極的な受診を促す必要がある。

また、島民から小森医師に対する信頼は厚く、小森医師の言葉で安心していく島民をみて、いかにこの検診が意義あるものか理解した。例を挙げると、めまいを訴えるメニエール病患者に対して、めまいはどのようにして起こるのか、どう付き合っていくのかを分かりやすく説明し、めまいというものを認知させていく場面があった。特効薬などがない症状に対しては、その原因や対処法を認知することによって患者の苦痛や不満は取り除かれる場合がある。精神科領域の認知行動療法がその例である。まだ経験の浅い舢倉診療所所長はすぐに根治療法や薬に飛びつきたくなるが、今回のような小森医師の診察技術を間近に拝見できたのは所長にとっても大変貴重な機会であった。

10名の受診者で異常所見の内容は限局性外耳道炎、メニエール病などであった。普段はふれる機会の少ない専門的な視点から今後の治療方針の御指導をして頂いた。また、今年度はオージオメーターによる聴力検査を必要とする受診者はいなかった。検診前にオージオメーターを使用してみたが、防音室での検査ではないため雑音の影響は少なからずある。検査時はエアコンを切ったりするなど工夫し、静かな環境で行うことを推奨する。

高齢者や喫煙者はもちろんのこと、島には若い海女もおり、今後は若い世代への健診受診も促し、将来のために、耳栓の使用方法や、有症状時の対応の仕方などを聞く機会としても健診の場を活用して頂くことが、検診をより有意義なものとするために重要であると考えられた。



耳鼻咽喉科診療風景

#### <整形外科>

整形外科は、高川医師に担当して頂く予定であったが新型コロナウイルスの影響を受け中止となった。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多く、日常診療では的確な治療およびアドバイスが行えていないと思われた為、平成20年から実施されている。昨年は令和元年度以来、3年ぶりに整形外科が開催された。来年以降も引き続き整形外科検診を開催されることを切に願っている。

#### <特定健診>

特定健診は6月1日～7月31日の期間で舩倉島夏季総合診療とは別日に所長がすべて行った。実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導（栄養指導）である。

受診者は男性10名、女性10名であった。昨年同様、特定健診の受診者には普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもあり、特定健診の意義は大きかったと考えられる。普段健康に心配のない方でも特定健診だけは受診するという方も少なからずみられた。

#### <大腸がん検診>

今年度は4年ぶりに大腸癌のスクリーニング検査として便潜血検査を実施した。事前に診療所便りで広報し、希望者を募っての検査とした。便を採取するのに2日間かかること、自分で便を採取することの煩雑さがあるが島民からのニーズは高かった。以前に検診で異常を指摘されて下部内視鏡検査を定期的に受けられている方は大腸がん検診を受けていないこともあり、大腸癌のスクリーニングをしている人自体が減少している。ただ、自分で便を採取することが難しく中止された方もおり、来年度以降は丁寧な指導が必要と考えられる。今年度受診した12人のうち異常を認めたものは1名であり、その後上下部内視鏡で精査を行っている。大腸癌検査としては感度の高い検査であり、簡便・低侵襲な検査であることから今後も継続して行っていくべきと考える。

大量の海藻摂取で偽陽性となることがわかっており、検体の容器を配る際に海藻の摂取を抑えるようアナウンスを行った。また、検体は冷暗所で保存する必要があるため冷蔵庫で保存することが多いが、島民自身が所有する冷蔵庫で保存するのは抵抗がある人もいる。検体採取後はなるべく早めに診療所内の冷蔵庫で保管するように周知すれば受診率はあがるかもしれない。

島民の大腸癌検診への関心は非常に高く、舢倉島での高齢化・喫煙率の高さ・大腸内視鏡検査受診への敷居の高さを考慮すると、今後も島民全員の大腸癌健診参加を促す働きを進めていくことが重要である。

## 7. まとめ

これまでこの総合診療が継続できたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この検診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舢倉島診療において根幹をなしていると言える。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により総合検診は中止となったが、小森貴医師の多大なるご尽力の賜物により耳鼻咽喉科のみ検診を行うことができた。島民は、普段は専門的な診療に気軽に触れることができず、毎年の総合診療は非常に価値のあるイベントである。

また、夏期舢倉島総合診療参加者の人口構成を見ると、高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見が重要な位置を占めてきている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舢倉診療所長に課せられた命題と考える。

## 9. 謝辞

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた内科、整形外科診療は開催できませんでした。小森医師のご協力により耳鼻咽喉科診療を開催することができました。小森医師をはじめ、参加予定であったスタッフの皆様、準備の段階からご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるととても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。所長そして島民一同深く感謝を申し上げます。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えを下さいますようお願い申し上げます。

舢倉診療所長 河端 康平

令和5年度診療スタッフ集合写真（R5.8.27 出航前の希海（のぞみ）前にて）

